

第2回多職種のための投稿論文書き方セミナー

質的研究とは何か

川野 健 治 (立命館大学総合心理学部)

I. はじめに

本稿では、「インタビューを録音して書き起こし（あるいはメモをつくり）、そのデータ（プロトコル）を分析して論文を書く」というごく一部の形式に限定して、質的研究の考え方を説明する。これはインタビューされた人の主観的な意味世界を理解しようとする研究方法であり、象徴的相互行為論や現象学の理論的立場に立つもので、コード化と呼ばれる手法でデータを分析することが多い。ただし、主観的アプローチにはコード化以外の解釈手法もある（表）。

もちろん、質的研究にはそれ以外に多様なアプローチがある。グループインタビューやフィールドワーク、関与観察などの手法を用いた研究は、社会状況がどのようなやりとりで形成されているのかを記述しようとする構成主義やエスノメソドロジーの立場に立ち、そこでのコミュニケーションの構造、例えば教室で先生が質問するとき誰がどのように答えるのか、といった

分析に取り組む。そこから教室の秩序やその変化が理解できるだろう。あるいは写真や映画を取り上げて、その作品において表現された内容に隠れた構造を解釈する場合、精神分析や構成主義の立場から解釈学的な検討を加えることになる。紙幅の関係でこれらに詳しく触れることはできないが、すぐれた成書があるので参照していただきたい。

II. 分析の流れ

質的研究の最初のつまずきは、ことばのデータ（数字化されていないもの）を整理すれば質的研究だという誤解ではないだろうか。これは表でいえば、データ収集の方法にだけ着目することである。数字でとったデータも集計して分析するように、ことばでとったデータも適切に分析して「解釈」することによって、人の主観的世界や社会状況を理解することができる。その適切な分析を導くのが表における理論であり、これまで開発されてきた解釈の手法である。

表 質的研究における研究視角

	主観的観点への アプローチ	社会状況の形成の記述	隠れた構造の 解釈学的分析
理論的立場	象徴的相互行為論 現象学	エスノメソドロジー 構成主義	精神分析 生成的構成主義
データ収集 の方法	半構造化インタビュー ナラティブ・インタビュー	フォーカスグループ エスノグラフィー 関与考察 相互作用の記録 ドキュメント収集	相互作用の記録 写真 映画
解釈の手法	理論的コード化 内容分析 ナラティブ分析 解釈学的方法	会話分析 ディスコース分析 ドキュメント分析	客観的解釈学 深層解釈学

(文献¹⁾より改変)

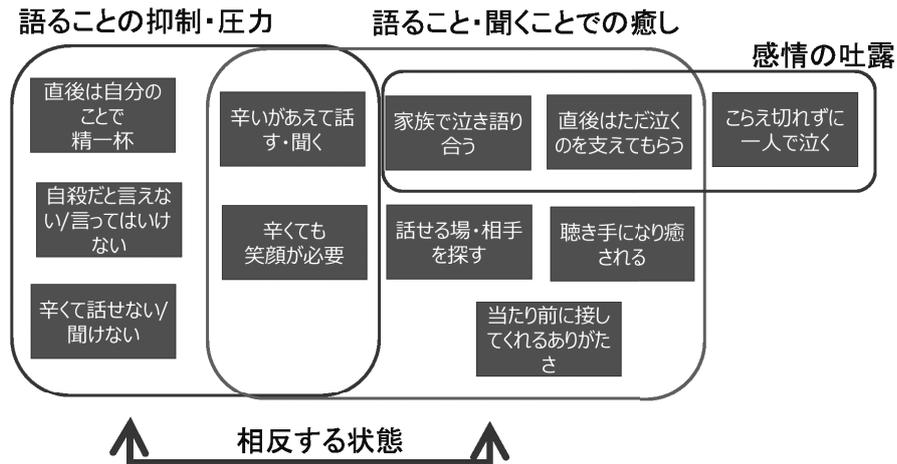


図1 自死遺族の語りの構造

ここでは、インタビューデータの分析において多く用いられてきた、コード化と呼ばれる作業のイメージを作っていこう。コード化はKJ法やグラウンディッドセオリーなど、有名な質的データの分析手法にある程度共通した作業である。

自死遺族の方は、誰かに経験を打ち明けることをどのように感じているのだろうか、という研究上の問い(リサーチクエストンということがある)をもって、ある自死遺族へのインタビューを行い、内容を書き起こした²⁾。まず取り組むのは、インタビューデータから小さな単位で重要な表現を取り出すことである(この作業を切片化と呼ぶこともある)。何度も書き起こしたものを読んで、研究上の問いに関わると思われる次のような表現を取り出すことにした。「自殺ということは、周囲の方には言っていない」、「直後は自分のことで精一杯」、「家族にも涙は見せずにいました」、「お風呂で一人になったときには突然涙がこぼれました」。この4つの表現を別々にカード(ヤポスト・イット®)に書き出してみる。別の自死遺族の語りからも同じように書き出す。

カードがある程度集まったところで、次の段階として、内容のよく似たカードを集めて、そのグループをよく表す見出しをつけてみる。「直後は自分のことで精一杯」のほかに、「自殺だと言えない」、「辛くて話せない」、「辛いがあえて話す」、「辛くて笑顔が必要」といったカードが集まったので、『語ることの抑制・圧力』と見出しをつけてみた。同様に『語ること・聞くことでの癒し』、『感情の吐露』と全部で大きく3つのグループができあがった。さらにその3つの関係が見えやすいように、カードを配置していった。複雑な内容や矛盾する語りがある場合、論理的な文でいきな

り表現することは難しく、空間的に配置しラベルをつける方がわかりやすい。ここでは矛盾する内容を含むカードを共通項に、自死遺族が自らの経験を他者に語るることについて、「相反する状態」を含む主観的構造として示された(図1)。このように見出しをつけたり、見出し間でさらにラベルをつける作業を「コード化」と呼ぶ。

次にこの構造を一つのストーリーとして表現してみよう。分析過程で生み出した見出しを使うことで分析者の視点が反映される。一方、カードの内容を適宜引用することで、リアリティのあるストーリーになるだろう。「自殺を語ることは時に抑制される。遺されたことを話すことはとても辛い。あるいは自殺と言えないと考えてしまう。でも感情の吐露が起こることもある。話したい気持ちもあり(だからこそ傷つくことも)、聴いてくれる相手を探している。実際、自ら話し、また、他の遺族の話を聴くことで癒される。自死遺族の傷つき体験が指摘されることがあるが、そこからこのような、相反する状況が生まれているのだろう」。なお、この領域ですでに知られている理論や先行研究の知見を導き手とすることでストーリー化が進むことがある。ここでは、自死遺族の傷つき体験についての知見が反映されている。

ごく単純化した流れであるが、インタビューで聞き取った言葉をそのまま整理するのではなく、かといって直感的にまとめるのでもなく、聞き取ったデータに依拠しながら抽象化する手順を示した。インタビューの理解とそれを超えた転用可能性(他の自死遺族や場合によっては死因に限らず死別全般の理解などに役立つこと)が得られることが、分析の成果として評価されるべき点だろう。

Ⅲ. 分析を導くもの—リサーチクエスション, 背景となる理論・知識, 十分な量のデータ—

ところで, コード化の手続きは適切にコントロールする必要がある。ここではさらに単純化して, 肉, 白菜, 春菊, しらたき, ねぎ, 豆腐という6項目を分類する例を考えてみよう。肉と豆腐, 白菜と春菊とねぎ, しらたき, と3つのグループに分けて, それぞれたんぱく質, ビタミン, 食物繊維とコード化し, 全体としてすきやきの栄養バランスについて, ストーリー化していくことができる(図2の上段)。しかしもし仮に, 最初のグループ化で豆腐と白菜としらたき, 春菊とねぎ, 肉として, それぞれ白い食材, 緑の食材, 赤い食材とコード化した場合には, すきやきの材料を盛り付けるときの見栄えについてのストーリー化へと進むかもしれない。

つまり, インタビューデータの切片化とコード化は, ちょっとした偶然で全く異なる結論へ到達する可能性がある。個々のカードに書き出された質的データは, 多様なグループ化に開かれているのである。

もちろん, 異なる解釈があってもよい。しかし, 不適切な展開を防ぐ必要はあり, その有効な手立ての一つが, リサーチクエスションを適宜確認することである。データを元のインタビューデータから取り出す際だけでなく, コード化やストーリー化においてもコントロールに役立つだろう。ただし, 質的研究を進めていく中で, 新たな魅力的なリサーチクエスションを見出ししてしまうことがある。その新たな気づきを活かすことも質的研究の意義であるとするなら, 見出したリサーチクエスションを記録しておくべきで, 場合によっては研究目的の再設定と切片化から, 研究を「や

り直す」こともある。

次に, 先行研究によって知られている知見や関連する理論等について精通しておくことが, 分析に方向性を与えることが指摘できる。上記の例でいえば, そもそもすきやきを知らなかったり, しらたきを見たことがなければ, 分析は不可能である。十分な事前研究や経験が質的研究の条件ともいえるだろう。それは必ずしも理論や知見どおりに分析するという意味ではなく, 先行する理論や先行研究, 現場で言われている常識では説明できないデータを見出し, 解釈していくところにこそ質的研究の魅力がある。

さらに, 基本的な条件として, 十分なデータを得ていることが大切である。グループ化はよく似たカードが複数枚あるからこそできるのであり, コード化もより適切なものになる。この例では, 肉, 白菜, 春菊, しらたき, ねぎ, 豆腐のほかに, 大皿, 照明, 写真, 氷, 霧吹きというデータもあったと仮定してみよう。データ全体を眺めた段階で, すきやきの材料を並べての写真撮影か, インスタ映えかという想定ができるのではないだろうか。このデータを概観しているうちに生まれてくる仮説のようなもの, が分析を導いていくことがあり, それは事前にどれだけデータを集め, 適切に取り出したかに依存する。そこで質的研究では, 一度分析を進めてから, データの不足に気づき, あらたなインタビューを始める, という展開になることもある。

Ⅳ. おわりに

最後に質的研究の包括的定義を紹介する。Denzin & Lincoln (2005) によると, 質的研究とは, 観察者を世界の中に位置づける, 状況に組み込まれた活動である。解釈的, 具体的な一連の実践からなり, それによって世界を可視化する。こうした実践によって世界は, フィールドノート, インタビュー, 会話, 写真, 記録, 自分用のメモなどを含む, 一連の表現に転換される。質的研究者は事物を自然な状態で研究し, 人々が事物に付与する意味の観点から現象を理解ないし解釈しようとするのである。

文 献

- 1) ウヴェ・フリック. 質的研究のデザイン. 新曜社, 2016.
- 2) 川野建治. 自殺で遺された人々と心理学の課題. 日本心理学会編. 心理学ワールド50号刊行記念出版, 2011: 139-144.

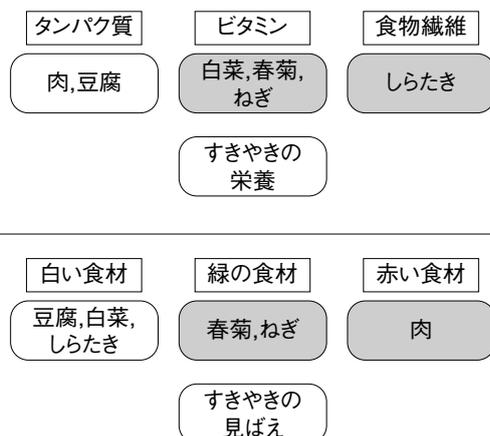


図2 6つの食材についての異なる分析課程